

Face to Face



TICOは保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター

No.34 2013年7月号

ザンビア募金

皆様からご支援いただいたザンビア募金の使途について、ご報告します。

👉p.2-3

カンボジア便り

6月に保健専門家がカンボジアへ渡航しましたので、報告します。

👉p.4

ザンビア

安全な妊娠・出産支援

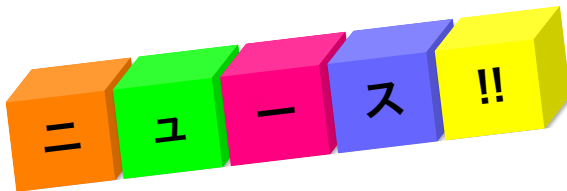
実施した研修のご報告とピアエデュケーターをご紹介します。

👉p.5-7

事務局だより

8月に開催予定の地球人カレッジについて、お知らせします。

👉p.8



「看護師アイビーが徳島にやってくる!」

アイビーは、TICOの活動地であるザンビア・モンボシ村にある診療所の看護師です。

今秋、TICOが実施する母子保健研修のため来日する予定です。

ザンビアスタッフの田村と一緒に



予防接種のようす



乳児健診のようす



ザンビア募金で支援したプロジェクト

～ムエンバ村橋修繕プロジェクト～



参加者みんなで完成した橋を渡り初め

瀬戸口千佳（業務調整員）



ザンビア募金へのご協力ありがとうございます。
引き続きお力添えをお願いいたします！

総額：411,480円

（平成25年6月30日現在）

現在までに使った額：
64,000円

今後予定されている
支援にかかる経費：
880,000円

必要です！！
532,520円

安全な妊娠出産支援事業（5-6ページ参照）が実施されているモンボシ地区の一つにムエンバ村があります。約100世帯、800人の村人が住み、ほとんどが農業で生計を立てています。村と村の境を形成するように川が縦断しているのですが、その一つに橋がかけられています。よく見かけられるような岩と大木で手作りされたものではなく、耐久性のある鉄製の橋。ある資産家が私費を投じて村のために作ったのですが、数年前の急激な川の増水により壊れてしまい、危ない状態になっていました。そこで村人たちが自らの資金と労力を持ち寄り修繕作業が始まったのですが、資金不足に陥り、支援の申し入れを受けました。状況を把握するために現場を視察しました

が、自力で修繕を試みたコミュニティの気概をひしひしと感じ、まさにザンビア募金を役立てるべき事案と判断しました。

TICOから資材が届くとあれよあれよという間に、橋の修繕を終わらせてしまった村人たち。普段のゆっくりのんびりペースからは想像できない早さで、真に必要なを感じていればこれほどの勢いで物事が進むのだと、自戒も込めて思い知らされました。ちなみにTICOは、この修繕にかかった費用の6割を負担するのみで、あとは地域住民のカンパで賄っています。

＜写真で振り返る修繕の軌跡＞

修繕前の橋

村人たちが自力で補修した橋

村人との話し合いで
決定したTICOからの支援
セメント16袋
強化ワイヤー50メートル
金属製ポール6メートル11本
計64,000円
※運搬のためのガソリン代、
事務管理費を含みます。

支援セメントで固める
作業中の橋

橋の強化作業が終了し
柵の取り付けを待つ橋

柵の取り付けが
終わり完成！



おばちゃんたちが踊りと歌でお出迎え

村人たちの
カンパの記録

橋が修繕されたことによって、地域住民は雨期でも川を渡ることができ、ヘルスポストや学校などに引き続き行くことが可能になり、また車が通れる強度に高めたことで農産物を市場にスムーズに運搬できるようになりました。

完工の折には、橋の修繕を祝う会に主賓として招かれました。近隣の村長やその村長を束ねる上位村長を差し置いた主賓という待遇に冷や汗をかきながら、彼ら

自身がやり遂げた功績を讃える場に立ち会えたことはなによりうれしいことでした。この日のために村人からは16羽のニワトリと7頭のヤギ、そして村長から1頭の牛が拠出されました。知り合いの村人からは「今日はシマじゃなくて肉を食べる日だぞ!」と何度も力説されるほどの大盤振る舞い。村人がこの橋の修復をいかに待ち望んでいたのか、その一端を知ることが出来ました。

この経験を通じ、コミュニティが手弁当でも解決したいと思う企画をもっと後押しできないか、と思うようになりました。こちらが「あれがないと困るのではないか」と先回りして世話を焼くのではなく、彼らがいま、必要性を感じている課題、そして地域が主導権を持って取り組める課題の解決をサポートしたい!

みなさんのご理解とご協力をなにとぞお願いいたします。

これからザンビア募金を使って支援したいプロジェクト

その1

プロジェクト名：家畜薬浴槽ディップタンクの建造

TICO負担額（申請額）：約20万円

コミュニティ負担額：約15万円

評価ポイント☆

- ①すでに地域の有志が浴槽部分を掘っている
- ②建造に必要な専門家や労働力が地元で手に入る
- ③家畜の健康が守られ、住民の生計安定に資する



2年前、家畜の感染症予防の大切さを伝えたいと自宅に薬浴槽を掘りかけたものの頓挫してしまったハチョンブワ氏。

彼の奥に見えるのが掘った浴槽部分。

その2

プロジェクト名：改良換気型トイレ設置
(コミュニティースクール)

TICO負担額（申請額）：約8万円

コミュニティ負担額：約4万円

評価ポイント☆

- ①学校の環境衛生向上に資する
- ②住民が改良換気型トイレの建て方を学べる
- ③建造に必要な専門家や労働力が地元で手に入る



学校唯一のトイレ。穴があいているだけの簡易トイレで、汚物を溜める穴が一杯になってしまいました。おまけに最近、牛の突進により見るも無残な姿に。。。

TICOから支援が受けられれば生徒用、教員用、来客用の3棟設置を希望。

その3

プロジェクト名：橋梁建設 (2地域より申請)

TICO負担額（申請額）：約30万円

コミュニティ負担額：約12万円

評価ポイント☆

- ①雨期のアクセスが改善されると、学校やヘルスポストに行くことが出来、健康や教育に資する
- ②農産物の運搬も楽になり、生計向上に貢献する
- ③水に入らずに済むため、住血吸虫の脅威から解放される



村人たちが作った橋。雨期で増水するとすべてが冠水してしまいます。

写真に写っている子どもたちの胸あたりまで増水するため、その間は学校に通うこともできません。

このほかにも、コミュニティースクールの教材支援や浅井戸の改善などの企画も上がってきています。

「ザンビア」と指定の上、ご寄付ください。

国際協力の現場は分からないことだらけ???

～より効果的な支援のために～

TICO 代表 吉田 修

ザンビアで活動が続けていますが、解らないことがたくさんあります。

- ・なぜ、貯蓄をしないのだろうか？
- ・なぜ、伝統的医療師（悪く言えば術呪医師）にかかるのか？
- ・基礎教育は本当に効果があるのか？あるのならどのような効果なのか？
- ・なぜ多産なのか？
- ・なぜ社会的信頼を捨ててまで小額の金を持ち逃げするのか？
- ・なぜ道路を直さないのか？
- ・地域ボランティアは長期的に効果的な活動を持続できるのか？
- ・援助は有効なのか？

最近、「貧乏人の経済学」（アビジット・バナジー氏、エスター・デュフロ氏著）と言う本を読みました。それによると、ランダム化対照試行という手法を用いて貧困について研究し、様々なことが解ってきたとのこと。確かに沢山の疑問に答えてくれ、また、答えに近づき得る科学的な方法があるのだと教えてくれました。

国際協力も、緊急人道支援の場合は有無を言わさぬ正当性がありますが、中長期の地域の開発に関わるような場合は、それが効果的で、かつ対費用効果も良いことが求められます。そのためには科学的な研究が欠かせません。

しかし、こういった研究には専門的な知識と膨大なエネルギーが必要で、小さなNGOにはなかなか困難なのですが、この度、TICOの理事でもある鳴門教育大学の近森教授がTICOの活動地であるザン

ンビアのモンボシ村の小学校にて理数科教育の研究で関わってくださることになりました。

どのような介入をすれば、先生の質が向上するのか、児童の知識が増えるのか、答えに近づけるかもしれません。



よしだ・おさむ：自称兼業農家（外科医）
徳島県出身。アフリカをはじめ世界各国にて国際医療支援活動を実施。現在吉野川市山川町のさくら診療所で地域医療を実践しながら、代表としてTICOを運営。
写真は徳島大学での講義のようす。

カンボジア便り



熱心に説明するソッタ医師

2013年6月8日から11日の間、公益社団法人セカンドハンド（本部・香川県）と共同でカンボジア王国・スヴァイリエン州における同州の救急医療をめぐる状況について視察してきました。

今回は、スヴァイリエン州の保健医療行政を統括している州保健局、州立の3つの病院（スヴァイリエン病院、チプー病院、ロミエハイ病院）、1つの公立の診療所、同州内の工業団地にある1つの日系企業の工場を訪問させていただきました。



ベトナム国境にあるカジノも併設している高層ホテル

視察にさせていただいた病院の一つであるロミエハイ病院には、日本風に言えば「現代の赤ひげ」とお呼びしたくなるソッタ医師がおられました。祖父は旧日本軍人で終戦後も現地に留まった方だったので、ソッタ医師の容貌も日本人そのものでした。ロミエハイ病院はスヴァイリエンの中で最も交通の便が悪い農村部にある病院のため、なかなか赴任したがる医師がいないそうですが、ソッタ医師は自ら手を挙げて赴任されたとのことでした。さらに、カンボジアの公的病院の医療スタッフは午後になるとほとんど仕事をしていないところが多いのですが、こ

渡部豪（保健医療専門家）



工場内はおそらく35度以上

こは午後5時を過ぎても熱心に働いていました。

また、日本企業の工場内には医務室があり、そこには常に複数の労働者が体調不良を訴えて来ているそうです。なぜなら、職場は非常に温度も湿度も高いのですが、屋内でも日差しが強く、労働者は日焼けしたくないと厚着をしたがるそうです。また、朝早くからトラックの荷台等に載って通っているため、朝食を食べていない人も多いそうです。このため、疲労や空腹、熱中症様の症状等が多いとのことでした。

州全体、各病院、工場の職場など、それぞれに課題はありますが、今回の視察により必要とされる支援がわかってきました。引き続き、支援のあり方を模索していきます。

ザンビア／チボンボ郡地域住民が支える安全な妊娠・ 出産支援事業



ザンビア人は老若男女問わずサッカー好き

田村幸根（保健医療専門家）

多くの人に正しいメッセージを！

5月中旬、ザンビア全土で「安全なお産キャンペーン」が展開されモンボシ地区でもSMAG（安産なお産/出産支援ボランティアグループ：スマッグ）による啓発活動が各村で行われました。

SMAGは、さまざまな方法で村人たちにメッセージを伝えようと、ボランティアとしてできることを考え日々活動しています。

第一弾！サッカーで村人を集める!!

5月のザンビアは乾季。秋の雰囲気が漂う気持ちのよい日が続きます。6月に入ると一気に朝夕は冷え込みますが、日中は非常に過ごしやすい時期なんです。そんな5月の初旬に、モンボシ地域のSMAG総勢

約100名によるサッカー大会を開催しました。

20代から60代までの幅広い年齢層の男女によるボランティアグループ。当然若い層が年配層を引っ張るのかと思います。。。さすがにタフな面々が揃っています。普段から2、3時間の道のりをへっちゃらで歩いているので自然と基礎体力が備わっているのでしょう。本当に疲れ知らずです。「もう1ゲームしよう！」の声に「もう勘弁・・・」と根を上げていたのは日本人でした。

試合と試合の間に、サッカーを応援するために集まった住民に向けて、妊産婦保健に関する「安全に施設で出産をしよう」「赤ちゃんとお母さんの健康のために男性も一緒に妊婦検診へ行こう」といった内容の健康教育を行いました。

今回のサッカー大会の目的は、順位をつけるためでなく、楽しみながらSMAGの活動を地域の住民に知ってもらい、妊産婦保健に関する健康教育をすることです。

サッカーが大好きな国民性。村で試合が行われていると自然と人が集まってくるのです。どんなに小さな村にも、大抵住民によって建てられた学校と教会だけは必ずあるのですが、木でこしらえたサッカーのゴール枠も当たり前にあります。

特筆すべきは、サッカーは普段啓発がしにくい男性、特に若い男性層も集まるため、男性に向けたメッセージを伝えることができる機会です。そして、なによりみんなが楽しめるという点で非常に面白い啓発の方法なのです。

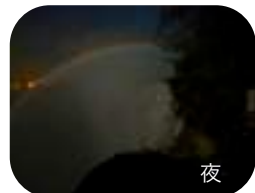
猫目線

犬ってどうして満月を見ると遠吠えするんでしょうね。寒くなったザンビアでヒーター前を独占するわたくし、猫のチャイが今回お届けするのは満月にまつわる不思議な現象。みなさん、世界三大瀑布って聞いたことありますか？瀑布とは滝のこと。ナイアガラ滝、ビクトリアの滝、イグアスの



滝の三つが一般的に挙げられますが、ビクトリアの滝というのがザンビアとジンバブエの国境にまたがって流れています。巻き上がる水煙で滝は見え、轟音だけが聞こえることから、現地名はモシ・オ・トゥニヤ（雷鳴轟く水煙）。この立ち上る水煙にはきれいな虹がかかって、それはそれは美しいんだそうですが、期限限定で見られる虹「ルナ・レインボー」にご主人とっても感激したそうです。ルナ・レインボー、それは満月の光で出来る虹のこと。夜の静寂の中、ゴォゴォという激しい音の中を

聞きながら満月に照らされた遊歩道を歩くとそれは現れます。左が昼間の虹、右が夜の虹で同じ日、同じ場所からご主人が撮影したものです。とても幻想的で神秘的な時間だったと、ご主人はご機嫌でした。私もいつか見たいものです。にゃー。



第二弾！横断幕を持って村内練り歩き！

おそろいのオレンジTシャツに身を包み、村の中をSMAGたちがメッセージを含んだ歌を歌いながら住民に向けたメッセージが書かれた横断幕を持って村内を練り歩きました。



練り歩きのようす

横断幕は職人さんの手書き

この横断幕、地域住民に伝えたいメッセージを6種類考え、活動地域の主要な言葉であるトンガ語に訳しました。

- ①4回以上の妊婦健診へ行こう
- ②我が子よ、施設で産まれてきてくれてありがとう
- ③ストップ!若年妊娠
- ④適切に妊娠期間を空けて妻と子供の健康を守ろう
- ⑤（男性に向けて）パートナーと一緒に妊婦健診に参加しよう
- ⑥分娩予定日を知り、事前にお産を待つ家で待機しよう

考えたメッセージをSMAGに英語からトンガ語に訳してもらったのですが、トンガ語はもともと話し言葉としてできた言語であり書き残すための言葉ではなかったため、決まった単語のスペルがなく苦労しました。また、言葉の語彙が少ないようで「診療所」「総合病院」「産婦人科」「産科病棟」「お産を待つ家」など「病院」に関する単語だけでも日本語では目的に応じていろいろな表現方法がありますが、こちらの言語ではそれらの単語すべてが「KUCIBADELA」（クチバデラ）という一つの単語で表しているそうです。

正しいメッセージを伝えることが重要な啓発活動。その難しさがまた浮き彫りになりましたが、地域に住む住民に身近なボランティアだからこそできる活動を今後も一歩ずつ進めていってほしいと思います。

お産を待つ家で多くの命が誕生しています！

2010年からモンボシ地域で開始した「住民が支える安全な妊娠/出産支援プロジェクト」もみなさんのご支援により、3年目を迎えています。現在3年間のプロジェクトの効果を確認するため、SMAGによる産婦さんへインタビュー形式での達成度調査を行っています。インタビューは妊娠中のこと、出産、産後のエピソードなどザンビアのお母さんたちの生の声を聞くことができる貴重な調査です。

TICOがモンボシに建設した「お産を待つ家」で出産し、その後地域に戻った産婦さんにも出会うことがあります。今回はお産を待つ家でお産したある産婦さんをご紹介します。

妊娠7か月目で突然のお腹の痛みがお母さんを襲い、あわてて診療所に牛車で駆け込み出産。出生体重1000gの赤ちゃんだったそうです。そのため助産師が上位病院へ転院させようとしたのですが、あいにく救急車が出払っていて車は送れないという返事。医師からの指示はカンガルーケア*をしてあかちゃんの保温に努めるようにとのことだったそうです。お母さんのがんばりと出産を担当した助産師により2週間毎に診療所で成長、発達のフォローアップをしてきた成果があったのでしょうか、現在、生後2か月と15日になった赤ちゃんは、インタビュー中も元気よく母乳を飲んでおり、順調に成長していました！体重がようやく約2500gになったとお母さんがうれしそうに話してくれたのが印象的でした。



牛車に乗せて患者を診療所へ

実は、お産を待つ家ができる前はベッド数が不足しており出産後なんと早くも2時間後には診療所を出て帰宅しなければなりませんでした。また、車の荷台に乗って移動途中に、寒い外気にさらされた新生児が命を落としてしまったという話も聞いています。

お産を待つ家ができただけでなく、あわてて帰宅する必要がなくなり、安心して母子の状態がよくなるまで様子を見ることができるようになっています。少なくとも一晩はお産を待つ家でゆっくり休み、産後健診を受診してから帰宅をしています。新生児1000人のうち27人**がいまだ亡くなってしまうというザンビア。お産を待つ家がこれまで以上に安全で安心に命を迎える場所になってほしいと思います。

インタビューの結果は、今後の活動をより効果的・効率的に進めるための改善に活かしていきます。みなさまにも今後会報を通してお伝えします。

*カンガルーケアとは

出産後すぐに新生児を母親の素肌の胸の上で抱く方法のこと。南米のコロンビアの病院から広まったとされており、保育器が不足している上に早産や低出生体重児が多かったが、母親（父親）が四六時中抱き続けるようにしたところ感染症による院内死亡が激減した。この方法がカンガルーの子育てに似ていることから名づけられた。

**WHOの2012年のデータWorld Health Statisticsより

- 2010年10月から始まった、ザンビア・チボボ郡モンボシにて安全な妊娠・出産のための環境づくりを目標としたプロジェクト。JICA（国際協力機構）から「草の根技術協力事業」として委託を受けています。

10代での妊娠防止に向けて



熱心に授業を受けているようす

地域が抱える課題の一つである「若年妊娠（10代での妊娠）」防止を目的に、昨年に引き続き生徒の中からピアエデュケーターを養成しました。

ピア（peer）というのは「（年齢・地位・能力などが）同等の者」という意味で「仲間」と訳されたりします。特にHIV/AIDSなど性感染症の啓発活動に用いられることが多い健康教育の手法の一つです。専門家的立場や社会的立場が上の人から教えられるよりも、自分の友人や仲間から聞いた話の方がずっと耳に入り易く説得力がある、ということで「仲間による教育（ピア・エデュケーション）」と呼ばれています。養成したピアエデュケーターは生徒たちのロールモデルとなり、同世代の生徒たちに若年妊娠防止のメッセージを伝えていく立場となります。

今回はモンボシ地域にある8校の学校から教師10名とピアエデュケーターとして19名の生徒から参加がありました。

みなさんにピアエデュケーターをご紹介します。



サムエルくん
モンボシスクール

昨年もピアエデュケーション研修に参加してくれたサム。時折行動が乙女チックで、とってもラブラリーな少年です。学校では生徒会副会長。生徒会は先生が選ぶのだそうですが、選ぶ基準は成績が良く模範生徒となれること。時に低学年のお世話などをする役割もあります。

「運動は苦手だけど、ピアエデュケーターは僕にぴったりの活動！」と胸を張って答えてくれました。



カウエメさん
カルウェルエスクール

英語が非常に堪能な13歳、機転の利く中学1年生です。その英語力は先生たちも驚きを隠せないレベル。

「身体が成熟していない状態での妊娠・出産は生まれてくる赤ちゃんにも自分にとっても大きなリスクになるわ。自分と大切な友人を守るために私たちから呼びかけていこう」

と力強く生徒、先生に呼びかけてくれる姿は頼もしい限りです。

事務局長 福士庸二のつぶやき

観光地での安全はだれが守る？

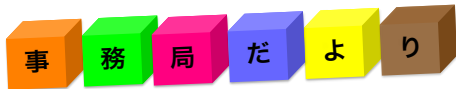
エジプトの有名な観光地ルクソールで観光客を乗せた熱気球が墜落し19名もの死者を出した事故を覚えておられるだろうか。近年、途上国の観光地では、大自然を売り物にした観光客相手の様々なアトラクションが人気を呼んでいる。しかし、その安全対策は十分といえるのだろうか？

旅先では、つい気が大きくなって、誘われるがままに普段はしないこともやってしまいがちなものだ。私も途上国にいたころ、休暇を利用し各地の観光地を訪れては、その地で評判のアトラクションを楽しんだ。今にして思えば、私の場合はただ運が良かったと言うべきなのかもしれない。少し大げさだが途上国では常に危険がいっぱい。失礼かもしれないが途上国の安全対策は、日本と比べていい加減な場合も多々あり、最終的には自分の安全は自分で守るしかないということを肝に命じておくべきだ。決して人任せにはいけないのである。

TICOの活動現場であるザンビアと隣国ジンバブエに股がるビクトリアの滝は、世界三大瀑布として名を馳せ、お勧めの観光地である。ここでも、バンジージャンプ、ラフティング、セスナ機による観光飛行など大自然とスリルを同時に満喫することが出来る。中でもバンジージャンプは、111メートルの高さを誇る。係のお兄ちゃんに本当に大丈夫かと尋ねると、答えは決まって「No problem!」（問題なし！）熱気球に乗った観光客は、出発前に「大丈夫？」と尋ねたのだろうか。そして答えは・・・？

どうぞ安全な夏のレジャーをお楽しみください。





徳島新聞記者が捉えた「アフリカの今」 ～ザンビアの国際協力活動の取材現場から～

報告者：藤長英之さん（徳島新聞社記者）
中川朋子さん（JICA四国支部 徳島デスク
国際交流推進員）

日時：平成25年8月23日（金）19:00～21:00

場所：さくら診療所 テイクア室

徳島県吉野川市山川町前川212-6

予約：不要 参加費：無料

8月の地球人カレッジ

今年の2月にJICA地方マスコミ派遣にてアフリカの地を初めて踏んだ徳島新聞社藤長記者。ボツワナ、ザンビア、エジプトの3か国をめぐる、日本政府や徳島県人による国際協力現場を取材しました。今回は本取材を通して藤長記者が体感したアフリカの姿をお伝えします。

また、取材に同行した中川推進員によるアフリカ食生活編も乞うご期待!

藤長記者が撮影した写真のパネル展示も同時開催いたしますので、ぜひ、お問い合わせの上ご参加ください♪



ご支援ありがとうございました

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。温かいご支援をお待ちしております。

寄付をいただいた方（書き損じハガキ含む）

高木クニ子、アベヤスユキ、K's Pet Clinic、
さくら診療所募金箱、さくらCafé募金箱、
庄田多江、PlanB募金箱、唐住洲子、池北洋子、
三木、TICOサポートクラブ、西愛正、
ごうだ歯科医、JOCVマラウイOB、田淵規子、
橋本伸子、尾崎富美子、渡部知美、福土庸二、
吉田修、匿名4人

町田美佳、入交秋子、田所幸枝、古川彩香、
尾崎富美子、新野和枝、石村明子、後藤田健二、
松田俊太郎、大地、饗場和彦、佐藤寧子、
山本秀樹、竹下みどり、古家聖子、
山田こどもクリニック、庄田多江、
特定非営利活動法人AMD A、瀬戸口千佳、
匿名2名

新たに入会された方

竹内裕子、中川朋子、杉本尊史

●2013年4月1日～2013年6月30日

●順不同、敬称略

会員を更新された方

大島英子、関谷晴孝、ダスキン川島、唐住洲子、
萩森健治、長野修身、真子多恵、田淵元樹、
八木正江、増田由菜、原田恵子、垣原宏治、
須藤榮子、篠原隆史、砂田節子、富峯康代、
畑和子、井内一志、大瀧知津枝、長野晶子、

TICOへのご寄付の方法

郵便振替 — 01640-6-37649（加入者名）TICO

銀行振込 — 四国銀行 山川支店（店番号344）
普通 0199692
特定非営利活動法人TICO
代表理事 吉田修
カナ入力の場合は、トクヒ）ティコ

募金箱 — さくら診療所（徳島県吉野川市）に
常設しています。

インターネット — TICOウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこからご購入物していただくと、代金の一部が寄付されます。詳しくはホームページをご覧ください。

書き損じはがきを集めています。

TICOへの入会方法

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートしてくださる方を募集しています。会員の方には、TICOニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

年会費

賛助会員	個人	¥12,000
	学生	¥6,000
	団体	¥15,000
正会員		¥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添え下さい。

なお、ゆうちょ銀行自動引き落とし、クレジットカード払いも可能です。詳しくはホームページをご覧ください。

TICOニュースレター Face to Face 第33号

2013年7月発行 発行人：吉田 修
編集：近森 由記子

特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4

電話：0883-42-2271（平日 9:30～18:30）

メール：info@tico.or.jp / ウェブサイト：www.tico.or.jp